

ヒロシマ ユネスコ

戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。……政府の政治的及び経済的取極（とりきめ）のみに基く平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永續する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。
(ユネスコ憲章前文より抜粋)

試練に立つ遺産景観

球場跡地と原爆ドーム

広島は、新球場誕生で過熱する一方、旧広島市民球場は跡地の利用をめぐって火花を散らし続けています。

利用計画の中核は、跡地の中央部を芝生の市民広場として、折り鶴の展示施設や劇

場を設けるといふもので、復興のシンボルでもある市民球場はスタンドの一部を残さずとすることをめざしています。

この二月、「跡地利用計画の見直しを求める市民球場跡地利用検討協議会」（市中央部商店街振興組合連合会、ホテル、百貨店などで結成）は「跡地の大半を広場や森とする計画は広島の元気につながるか疑問」として市議会へ陳情書を提出。現在地からの移転意向の広島商工会議所会頭も「集客力」に疑問を呈しています。



計画に対する賛否の声の対立軸を端的に表せば「平和」と「集客」です。また、もう一つの軋轢は跡地の新施設が世界遺産原爆ドームの景観を損なわず、またドームが担う機能の補完役を備え得るかどうか、です。

跡地利用と原爆ドームの景観問題を解く指針が、昨年七月に広島市が発表した原爆ドーム・平和公園周辺地区景観計画（素案）に盛り込まれています。

計画の趣旨は「世界遺産の周辺にふさわしい品格ある雰囲気と都市的な賑わいとのパランスがとれた都市空間の形成」とあり、建物の高さは（商工会議所から市民球場三塁側内野席付近（ここは遺産保護の緩衝地帯）は二十メートル以下）と規制しています。

この計画案に基づいて広島市は公聴会を企画し、当協会は原爆ドームの景観保護を訴える好機だとして北川建次会長を公述人として申請しましたが、その後住民説明会の遅延などを理由に開催延期を通告してきたままで開催されていません（高さ規制による資産価値・商業活動・居住権などへの悪影響を懸念する声が周辺地区にあります）。

（商工会議所）球場内野席付近二十メートル以下）の基準の初提起は〇六年十一月発表「平和公園周辺の建造物の高さを規制する美観要綱・改正版」で、二十メートル以下に次いで（ドーム東側隣接地区二十五メートル以下）（その南地区三十七・五メートル以下）（平和公園の西側地区と南側地区を五十メートル以下）と規定しています。が、（ドーム東側隣接地区二十五メートル）は同地区から球場跡地利用問題とも連動して反発があります。

〇六年、ドーム隣接の高層マンション建設で当協会も一石を投じた景観論争に端を発し、広島市の「平和公園周辺高さ規制・美観要綱」発表、（次ページ下段につづく）

ユネスコ新春フェスタ2009

表彰を交歓・交流 10団体を賞和やかに



国際理解、協力、交流などの活動を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞（後援：広島市教育委員会）の表彰式と新春コンサートを組み合わせた恒例の「ユネスコ新春フェスタ二〇〇九」は、十一回目を迎

えて、一月二十四日、エンジェルパルテで開かれました。

第一部、第十一回奨励賞表彰式は、まず北川会長の挨拶ではじまり、つづいて審査委員長の日本ユネスコ国内委員会前委員で広島経済大学中山修一教授が受賞団体それぞれの活動評価を交えながら講評。そして北川会長から賞状と記念のブロンズ楯が次の学校、団体に贈られました。

学校部門は五校。海田町立海田東小学校は、校区を流れる瀬野川などをフィールドに全校あげての環境教育への取り組みに。広島市立古田中学校は、地元の古田公民館と連携した韓国やカンボジアの子供たちとの国際交流活動に。広島女学院中学高等学校は、中高六カ年を通して生命の尊さや平和の大切さを認識させるための平和教育への取り組みに。広島県立湯来南高等学校は、イギリスのハーバーフォードウエスト市の学校との姉妹校提携を通しての国際交流活動に。広島経済大学興動館インドネシア国際貢献プロジェクトは、姉妹校のガジャマダ大学の学生と協働で、ジャワ中部地震による被災地復興支援活動に。

社会部門は五団体。トワ・エ・モアは、平均年齢八十一歳という高齢者の女性合唱団で「慰問、公演、交流、国際交流」を柱とする演奏活動に。広島市女性教育センター・グループ連絡会は、「暮らし、教育、文化、平和」をテーマに在広外国人を迎えての二十一年にわたる国際交流に。広島シンガポール協会は、広島とシンガポール共和国との幅広い交流を推進するなどの友好親善活動に。平和のためのヒロシマ通訳者グループは、広島を訪れる外国人に英語による平和記念資料館などのボランティア案内を通じての世界平和実現への貢献活動に。ワールド・フレンドシップ・センターは、永年にわたる平和使節の公募や被爆体験の証言、原爆養護ホーム慰問、原爆・平和関係図書翻訳活動などに対して。

表彰に続いて各学校、団体からそれぞれ活動内容の発表がおこなわれました。

第二部は、恒例の新春コンサート。ことしは広島市文化財団のひろしまオペラ・音楽推進委員会の協賛を得て「オペラコンサート」を企画。広島市のオペラ界を代表するふたりの歌手、乗松恵美さんと枝川一也さんを迎えての演奏会となりました。プログラムの前半は山田耕稼「日本歌曲集」から「あかとんぼ」「待ちぼうけ」「この道」などの懐かしい歌を。後半は、オペラの中のアリアを五曲。中でもブッチーニのオペラ「ジャンニ・スキッキ」より「私の好きなお父さん」では、当協会の藤井正一さんが急遽お父さん役でステージに上がり乗松さんを相手に即興の熱演。温かな笑いに包まれました。華やかなオペラの世界にしばし引き込まれ満席の参加者も心ゆくまで楽しんでいました。

表彰式、コンサートに続くパーティーでは、受賞団体が入れ替わりステージに立って、メンバーの紹介や活動余話などのスピーチをしました。なかでも最高齢九十四歳というトワ・エ・モアは、二十一人揃いのピンクのドレスでステージに並び、爽やかな合唱を披露しました。

ユネスコ会員と参加者との和やかな交歓、交流は時間の経つのを忘れるほどの盛り上がりを見せ、今年も年の初めにふさわしい「ユネスコ新春フェスタ」となりました。

（写真は、表彰状を受けとる古田中学校 天津早希さん）

（常任理事・井尾義信）

（一ページから続く）

そして公聴会を経て平和公園周辺を整備することによってドームの景観保護の構想が完成するという段階になって、急浮上した球場撤去・跡地利用問題により景観保護の網を都心部の一部も覆わざるを得なくなり、障壁がさらに高く複雑になりました。

この難題を解く論駁の場は？ 跡地にある。跡地を「球場」に絞ることなく、被爆の「焦土」の跡地に立てば「平和」と「集客」が融合する姿が視界に入ってくるはず。難題を解くカギは？ 今年制定六十周年を迎えた広島平和記念都市建設法第一条「この法律は恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として広島市を平和記念都市として建設することを目的とする」にあるのでは。

（常任理事・亀井 章）

中国ブロック・ユネスコ活動研究会尾道大会報告

標記の研究会が二月十四日（土）、十五日（日）に尾道ユネスコ協会の主管で行われた。

第一日目の会場は尾道市立土堂小学校の体育館。前日の春一番に伴う突風、夜半の降雨から一転して四月上旬並みの陽気に恵まれ、懸念された寒さが杞憂に終わったのは僥倖であった。開会式のと土堂小学校六年生の男女児童二十三名による太鼓演奏を鑑賞。小学生ながら一糸乱れぬ「土堂つ子太鼓」の演奏は見事であった。基調講演は尾道三古刹が向島の岩屋山に向けて建造されているという同僚の陰陽都市説から靈感を得た尾道ユネスコ協会会長稲田全



2009.02.15

示教授の長年のフィールドワークに基づく考察であった。当該四山のそれぞれの巨岩に施された人工的な割れ目と夏至・冬至の太陽とのリンクが検証され、「古事記」「日本書記」の記述との関連で尾道の古代自然信仰を探る壮大なロマンがパワーポイントを駆使した視覚資料を通して報告され聞き応えがあった。続いて本協会の北川建次会長が

日本ユネスコ国内委員会委員として同委員会の組織と活動内容および検討中の課題について詳細に説明された。第二日目も温暖な快晴に恵まれた。まず重要文化財「浄土寺」方丈の保存修理工事現場の見学で、管理事務所長の



2009.02.15

場の見学で、管理事務所長の明解な解説のあと工事中の建物の内部を直に観察できたのは得難い体験であった。続いて尾道市立中央図書館視聴覚ホールに場所を移して意見交換会が行われた。テーマは「地域文化の発見と活用」。

①「大内塗りと伝承の実践」発表者は大内塗りに職人。接着剤・防水防腐剤塗料としての漆塗りの歴史と「西の京」としての山口の街作りと大内塗り人形作りの由来について。後継者不足の悩みも切々と語られた。②「石見銀山地区における地域の取り組み」は世界遺産登録後の地域活性化を目指してきた温泉宿経営者の発表。入湯手形、ごかんべん（「ありがとう」味噌を使用した料理の開発等のさまざまな工夫が具体的にパワーポイントの画像とともにいきいきと紹介された。③「宮島ユネスコ協会の取り組み」は世界遺産登録後の宮島ユネスコ協会の取り組みが克明に報告された。外国人訪問客の「厳島神社はなぜ朱色なのか、どうして海の上に建てられているのか」などという素朴な疑問に的確に答えられうる標識もないのが現状。我々にとって当たり前が彼

らには当たり前ではないこと、宮島の雰囲気やspiritualと表現する彼らから宮島へは「行く」のか「詣る」のかを考えさせられる等、示唆に富んだ報告が。④「特別参加」は尾道大学卒業生と同大学二年生による発表。しなみ海道を自転車で巡る際に何の標識もないため道に迷う観光客のために、島ごとの特産品をあしらったイメージキャラクターをデザインし、それを用いた標識作りとガイドの実践報告があった。続いてフロアからの提言として本協会

亀井章常任理事より「鞆の浦の類い稀な歴史的文化的価値」について具体的に説明、「架橋計画と景観問題をめぐる昨今の状況」が、客観的かつ簡潔に披露された。免許差

し止め訴訟に対する三月中旬の広島地裁の判決に注目しようとの呼びかけにより、参加者の問題意識が喚起された。予定時間を大幅に超過したが密度の濃いひとときを共有した。二日間を通して地域文化の発掘と継承に視点を特化した大会であった。

本県からの参加者数は三十七名。そのうち本協会は北川会長ほか十二名が参加した。次年度の開催県は岡山で、日程は平成二十一年十一月十四日（土）、十五日（日）。テーマは「ユネスコ・スクール」の予定。

《ユネスコ会員綱領》

世界の平和と人類の幸福を永遠なものにすることは、ユネスコの理想である。これは、人間の知的・道義的連帯の上でのみ築かれるものである。われわれは、この理想を実現するために、ユネスコ会員綱領を定め、日常の規範として、これを守ることを誓う。

☑ 心の中に平和の守りを固めよう

戦争は人の心の中で始まるものであるから、争いを力で解決しようとする考えを捨て、すべての人が心の中に平和を守ろうとする決意を持たなければならない。

☑ すべての人間の尊厳を重んじよう

人間の尊厳と平等を重んじ、相互に尊重しあうという民主主義の原則にたつて、自由と人権を尊重する習慣を日常生活において守り育てることがたいせつである。

☑ 教育・科学・文化の発展に努めよう

教育・科学・文化は、人々のしあわせと豊かな生活をささえるものであるから、その向上と普及に努めなければならない。

☑ 民族間の疑惑と不信をのぞこう

争いをなくし、真の平和を永続させるためには、互いの生活と風俗習慣を知り合い、民族間の疑惑と不信を除くことが必要である。

☑ 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

世界の繁栄と人類の福祉を増進するためには、互いに友愛と信頼のきずなで結ばれ、人類は皆兄弟という心構えで助け合い、共存共栄の道を進むべきである。

（写真上）意見交換会の模様、写真下）意見交換会で提言する亀井常任理事
（広島県ユネスコ連絡協議会事務局長、広島ユネスコ協会常任理事・永田龍男）

世界遺産ツアー 光ユ協が宮島、広島へ

山口県光ユネスコ協会（团长・泉屋孝会長）四十三名の皆さんが、一月十七日、広島の二つの世界遺産を訪ねる日帰りバス旅行で広島にお見えになりました。

最初の訪問地宮島で広島県ユ連伊東亮三会長、永田龍男事務局長が出迎え、宮島ユ協井口健会長、濱岡寛次事務局長の解説で厳島神社を見学。次いで参道から離れた町家通りなど宮島の別の顔に触れるコース探訪もあり、宮島スタデイの締めくくりは昼飯の穴子丼。

午後は、正の遺産・厳島神社から一転、負の遺産原爆ドーム・コース。広島ユ協山本隆信事務局長らの出迎いの後、一行は広島平和記念資料館へ。三班に分かれて同館所属のピース・ボランティアの解説で熱心に見学。資料館見学後は被爆体験を聞く講話の時間。語り部は元平和記念資料館長の高橋昭博広島ユ協副会長。軍国少

年が被爆して死線を彷徨う経過をイラストと語りで辿る証言に一同耳を傾けました。

世界遺産ツアーのゴールは原爆ドーム見学。惨劇の証人〃を目の当たりにした光ユ協の皆さんは、その姿を眼とカメラに焼き付けて帰りのバスに乗り込みました。

杉並ユ協青年部広島訪問 ヒロシマ学習一年目に

東京・杉並ユ協の高校生・大学生たち十九人（厚木ユ協青年部、ロシア人大学生、ユ協板倉徳枝副会長・朝倉会長夫人を含む）が、三月二十八日、広島を訪れ、三日間の学習・体験活動に励まれました。

初日は、広島平和記念資料館見学と広島ユ協高橋昭博副会長（元同館館長）の被爆証言の講話でヒロシマを学習。その日、夕刻からは広島大附属高校ユネスコ班の生徒五人が杉並ユ協の定宿・広島市国際青年会館に合流して、夕食の調理・食事を共にし、夜の交流会では「杉並・ヒロシマ」「高校生活」をめぐる情報交換など活発に語り合いま

した。

二日目は袋町小学校平和資料室、碑めぐり、お好み焼き体験など班別活動をした後、厳島神社、江田島見学（江田島泊）などツアーを満喫。三日目は帰京組、旅程延長組などに分かれ、一行は実り多かつた春の広島を後にしました。



（10月）

14日／教育部会・事務局会議（市民交流プラザ）

17日／ユネスコ活動奨励賞候補推薦委員会（広島国際会議場）

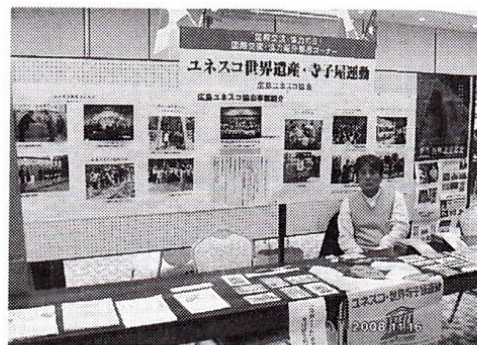
25日／機関紙第七十号発行

26日／ペあせろべ 國田常任理事ほか（中央公園芝生広場）

（11月）

6日／教育・国際・平和部会（市民交流プラザ）

15日／国際交流・協力の日準備（市民交流プラザ）



16日／国際交流・協力の日北川会長ほか（国際会議場）

26日／光田・高橋副会長受賞を祝う会（エンゼルパルテ）

（12月）

4日／ユネスコ活動奨励賞候補推薦委員会（国際会議場）

10日／アフガニスタン青年研修 被爆証言・北川会長

通訳・永田常任理事

16日／ユネスコ活動奨励賞審査会（立町キャンパス）

18日／奨励賞表彰・紹介文検討会（市民交流プラザ）

20日／世界寺子屋運動募金活動（八丁堀福屋前） 広大附

属高校生十三人、教育部会

（1月）

5日／教育・事務局会議（市民交流プラザ）

17日／光ユネスコ世界遺産平和記念資料館見学 被爆証言・高橋副会長

24日／ユネスコ新春フェスタ表彰式・コンサート（エンゼルパルテ）

（2月）

14～15日／中国ブロック・ユネスコ活動研究会尾道大会

北川会長ほか十二名（土堂小学校ほか）

27日／「ひろしま国際交流サミット」総会・講演会分科会（広島ガーデンパレス）

（3月）

27日／高校生のつどい「異文化理解講座」（現代美術館）

28日／杉並ユネスコ協会青年部広島研修・被爆証言高橋副会長（平和記念資料館）

29日／ユネスコサロン（出前講座）「人との出会いは

人生の財産」RCCラジオパーソナリティー 世良洋子（已斐公民館）

29日／役員候補者推薦委員会（已斐公民館）

30日／機関紙第七十一号発行

